

- パラリンピアンとの交流をきっかけに共生社会の実現のための、ユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーの取組を実施するホストタウンを促進。これにより地域主導の共生社会の実現を加速すると共に、パラリンピックに向けた機運を全国に波及。
- 平成29年11月に募集開始、12月に先行的な取組事例として6件※1を登録、平成30年5月に7件※2を登録。引き続き共生社会の実現に向けて熱心に取組みを行う自治体の登録を募集

<取組概要>

※1三沢市、浜松市、明石市、宇部市、高松市、世田谷区

※2遠野市、川崎市、神戸市、鳥取県・鳥取市、田川市、飯塚市、大分市

○共生社会の実現に向けた取組の推進

障害のある海外の選手たちを迎えることをきっかけに、ユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーに向けた、自治体ならではの特色ある総合的な取組を実施。大会のレガシーにもつなげていく。

車いす対応シャワー



UDツーリズムの検証



点字メニュー



手話通訳サービス



○東京大会の事後交流も含めた、幅広い形でのパラリンピアンとの交流

パラリンピックに向けた機運を醸成すると共に、障害のある選手たちと直に接することで住民の意識を変えていくきっかけとする。



川崎市の共生社会ホストタウン 活動計画

かわさきパラムーブメントの推進と英国チームの事前キャンプ受入

持続可能なまちづくりに向けて、様々な価値を持つ東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、**特にパラリンピックに重点を置き、誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指す運動を「かわさきパラムーブメント」と命名。**

検討段階から障害者団体等の意見を聞き、方向性を示した「かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョン」を策定。

ビジョンでは、「多様性と社会的包摂」及び「川崎のブランド力」に大別した9つのレガシーが形成された状態を明らかにし、その実現に向け、障害のある方をはじめとする社会的マイノリティの方々も一緒になり、市民一人ひとりが主体となり川崎から社会変革を促進。

また、英国代表パラリンピアンとの交流等により、パラリンピック競技大会に向けた機運醸成を図るとともに、共生社会の実現に繋げる。

めざせ！やさしさ日本代表

みんなの違いを活かせるチーム。
障がい、年齢、人種やLGBT
いろんな個性をチャンスにしよう。
川崎らしく、力強く。
未来を築いていく力は
私たちの中にある。



かわさきパラムーブメント

本市の掲げるステートメント入りのロゴ

ユニバーサルデザインの街づくり

● UDタクシーの普及と利用環境整備

- UDタクシーの導入補助（平成29年度末で58台）
- 専用乗り場の整備
→引続き、車両台数の増加と乗り場整備を推進
- UDタクシーを活用した工場夜景ツアーの実施



UDタクシー

● 駅・道路などにおけるバリアフリー化の推進

- 19地区におけるバリアフリー基本構想等に基づく視覚障害者誘導用ブロックの設置等
- 市内バリアフリーマップ（主要施設のバリアフリー情報含む）の刷新

◆ 川崎駅周辺の取組

- 行政サービスと観光案内の機能を持つ「かわさききたテラス」におけるデジタルガイドマップによるバリアフリー情報の発信
- 駅周辺のエレベーターに優先使用表示の推進



飲食店調査の様子

● アクセシブルシティかわさき

- 市内飲食店のバリアフリー調査と情報発信の試行
- 店舗におけるバリアフリー対応表示の推進

心のバリアフリー

● かわさきかつてにおもてなし大作戦(市民参加、市民活動の創発)

- パラムーブメントをより大きなうねりとしていくために、「ゲストからキャストへ」をキーワードに、障害の有無に関わらず多様な主体が「かわさきパラアンバサダー」として楽しく地域活動を行う、市民参加型のプロジェクトを推進

● 英国との交流事業

- ドレイク・ミュージック(英国音楽団体)と連携し、テクノロジーを活用することで、障害のあるなしに関わらず、音楽活動に関わる機会を生み出し、障害のある方が音楽に携われる取組の推進
- 高齢者のQOL向上を目指し、マンチェスター・カメラータ（英国音楽団体）のメンバーと連携した取組等の推進

● 短時間雇用プロジェクトと就労体験

- 市内事業者が仕事を切り出すことによる障害者の短時間就労の促進
(平成30年2月で延べ28名が就労)
- 障害者やひきこもりの方々に対し、様々な分野での就労を体験することで、労働・就労意欲を喚起し、正規就労を促進
(平成29年度は、74の体験企画を実施し、739名が参加)

● その他

- 市職員のユニバーサルマナー検定取得や事業者向けセミナーの開催、平成32年度までに全小学校で障害者スポーツ体験講座の実施など

三沢市の共生社会ホストタウン 活動計画

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに、共生社会実現に向けた取り組みを推進している。今後においては、ウィルチェアラグビーカナダチームのキャンプ受入を契機に、誰もが住みやすく暮らしやすい街・ユニバーサルタウン三沢の実現に向けた取り組みを加速させる。

ユニバーサルデザインの街づくり

- 障害当事者と共に、公共施設の改修に合わせバリアフリー・ユニバーサルデザインを推進



- 国際交流教育センターを改修し、車いす対応の宿泊部屋・シャワールーム等を設置

- 市の助成による民間店舗などのバリアフリー・ユニバーサルデザインの整備促進



- 事前キャンプを契機に、スポーツ団体、国際交流団体、経済団体、福祉団体等と連携した実行委員会を立ち上げ

心のバリアフリー

- 障害当事者講師による、心のバリアフリーセミナー、講演、ユニバーサルマナー教室・検定等の継続実施

- ー小中学校での授業
- ー市民向けイベント



- パラスポーツと連動した取り組み

- ーパラスポーツ設備(ボッチャ・車いす)を解放し障害の有無や年齢に関わらない交流を促進
- ーカナダウィルチェアラグビーチームとの交流・意見交換
- ーパラリンピアンによる体験型授業



- 意識啓発事業

- ーパンフレット作成
- ー「心のバリアフリー」絵画コンクール